



ワクチン

猫が健康に過ごすために、ワクチンの接種をお勧めします。センターからお譲りする場合、以下のウイルスの対する3種ワクチンを接種しています。(1回目は全頭済んでいます。)

- ・猫ウイルス性鼻気管炎
- ・猫カリシウイルス感染症
- ・猫汎白血球減少症

ワクチンは、1年目に約1ヶ月の間隔を置き2~3回。それ以降は1年に1回が基本的な接種スケジュールです。

屋内だけで飼っていても、飼い主さんがウイルスを運んでしまう場合もあります。ワクチンには4種、5種などもありますので、かかりつけの獣医師にご相談ください。

爪切り

猫の爪は通常指の中に引っ込めています(子猫は引っ込められません)。猫の爪は玉ねぎのように多層構造になっており、爪とぎをすると古い外側が外れ、内側の鋭利な爪が出てきます。猫にその気はなくても、爪で人を傷つけてしまったり布などに引っかかり危険です。定期的に爪切りをしましょう。猫の指を上下にゆっくり挟むと爪が出ます。無理やり全ての爪を切ろうとせず、1本ずつでも切れればOK! 鋭利な先端が切れれば問題ありません。

逸走防止

猫はテリトリー(縄張り)を大事にする動物です。スプレー(尿)をしたり、体をなすりつけて自分の臭いをつけ他の猫へアピールします(マーキング)。一度自分の臭いを付けたエリアは毎日巡回パトロールをしないと気が済みません。行ってほしくない部屋には立ち入らせない、屋外には出さないことが大切です。一度屋外に出すと猫は屋外に出たがります。屋外に出すと猫同士のけんかによる怪我やウイルス感染、交通事故の危険がいっぱい。屋内で飼ってご長寿猫を目指しましょう。

駆虫薬

駆虫薬には、ノミ・ダニ(外部寄生虫)を駆除するほか、おなかの中の寄生虫(内部寄生虫)を駆除する効果があります。お薬の種類により効果は様々で、駆除したい寄生虫に適した駆虫薬を選択しなければ効果はありません。

屋内だけで飼っていても、飼い主さんの足元などに着いてノミを屋内に持ち込んでしまう場合があります。被毛の中に黒いプツプツを見かけたり(いわゆるノミ糞)、猫の便の中に白い粒や線状の虫を見かけたら、治療が必要です。寄生虫によっては血便を発症することもあります。かかりつけの獣医師にご相談ください。

センターからお譲りした場合は駆虫済みですが、1回の薬剤では落としきれない場合もあります。駆虫直後は虫体が便中に出ますが、効果があった証拠です。1ヶ月後に追加で駆虫するかどうかは、動物病院でご相談ください。

災害対策

災害に対する備えはできていますか? 人間だけでなく、ペットへの備えも必要です。同行避難の備え(いつもの餌、避難所で使うケージ、猫砂、薬、事前のワクチン接種など)が必要です。避難する場合に備えて、飼える頭数は「一緒に避難できる頭数」までと考えてください。災害の状況によっては、おうちでの「在宅避難」が良いかもしれません。迷子になってしまった場合に備え、マイクロチップの装着や連絡先を明記した首輪をつけましょう。